

歌志内市

0341 吉田雅風

1. 概要

かつては石炭産業で栄え、ピーク時の 1948 年(昭和 23 年)には 46,000 人の人口を記録したが、その後石炭産業の衰退により減少し、現在は日本一人口の少ない市かつ日本で唯一人口が 1 万人を下回る市となっている。2007 年(平成 19 年)11 月には人口が 5 千人を割り込んだ。また、人口が日本一少ない市だが、同時に実は面積が北海道で一番狭い約 56 k m²の市でもある。

産業において、かつて歌志内には住友系列の炭鉱(空知炭鉱)が操業されていたが、1997 年(平成 9 年)までに全てが閉山された。

また、「街と鉄道」で触れてきた歌志内線という鉄道は、明治 1887 年(明治 20 年)に開業した。この時期に北海道のみならず国内で開業していた鉄道路線網を考えると、背負ってきたその歴史を感じることができる。

図 1 は歌志内のカントリーサインである。これには歌志内のシンボルのひとつであるかもい岳スキー場が描かれている。

図 2 は市章である。この紋章は、黒ダイヤを基礎として、本市生産の特異性と市名を表徴すべく、中央に「ウタ」を表し、「シナイ」はこれを図案化したものである。

図 3 は歌志内市シンボルキャラクターの「ホルンくん」である。1998 年(平成 10 年)に公募を行い誕生。スイス風の衣装を着た、ヒツジのキャラクターである。

図 1:カントリーサイン



出典：歌志内公式 HP

図 2:市章



出典:歌志内市公式 HP

図 3:シンボルマーク



出典:歌志内市公式 HP

2. 地名の由来・町の歴史

2.1 地名の由来

北海道にはアイヌ語を由来とする名前の町が多いが、歌志内もその一つである。市名の「歌志内」はアイヌ語の「オタ・ウシ・ナイ」(砂浜・にっている・川)に由来する。

なお、これを意識した地名が「砂川」である。市内を流れる「ペンケウタシナイ（上歌志内）川」がこれに該当する。アイヌ語で、「砂のたくさんある沢」という意味である。1891（明治24年）に北海道炭礦鉄道株式会社の鉄道開通の際、その意をとって歌志内と称し、これを地名とした。

2.2 歌志内のあゆみ

1890年（明治23年）に、北海道炭礦鉄道空知採炭所（歌志内開基）が開抗し、1891年（明治24年）には北海道炭礦鉄道により鉄道（後の歌志内線）が開通し、反映の基礎を築いた。その後、1897年（明治30年）に歌志内村（現歌志内市・赤平市・芦別市）、奈江村（現砂川市）より分裂。1900年（明治33年）芦別村（現芦別市）分立、1906年（明治39年）に二級町村制施行。「歌志内村」となり、1919年（大正8年）には一級町村制が施行される。1922年（大正11年）二級町村赤平村（現赤平市）分立。1940年（昭和15年）には町制が施行。「歌志内町」となる。空知管内でもおもしろい一大炭鉱都市であった歌志内は、第一次世界大戦後は、好況の波にのり人口も2万人を突破。さらに昭和に入ってからその勢いは続き、1948年（昭和23年）には本市史上最大の4千万人を記録するなど、輝かしい炭都としての歴史を歩みつづけるのだ。

戦後、1949年（昭和24年）に町域の一部が上砂川町町域の一部として分立。1951年（昭和26年）には歌志内町消防本部開設され、1958年（昭和33年）についに市制施行し「歌志内市」となった。しかし、その後は、1971年（昭和46年）住友石炭鉱業歌志内鉱業所閉山。1988年（昭和63年）住友石炭鉱業上歌志内鉱業所閉山、歌志内線が廃止される。1995年（平成7年）3月18日には最後の炭鉱であった北海道炭礦汽船空知炭鉱が閉山。（空知炭田群炭山消滅）105年続いた炭鉱の歴史が終わり、町の衰退ぶりが顕著になる。

現在では、「豊かな自然環境を生かした活力あるロマン＆ふれあいの里づくり」をテーマに特色あるまちづくりに務め、スイスランド構想の一貫として、まちの景観づくりにチロル風建築を取り入れたり新興住宅地の整備や橋の欄干のデザイン化に力を入れている。

2003年（平成15年）には、平成の大合併の流れを受けて中空知地域合併協議会が設置されたが2004年（平成16年）には解散。また、2006年（平成18年）2市3町（砂川市：事務局・歌志内市・奈井江町・上砂川町・浦臼町）地域づくり懇談会発足。合併に向けての財政シミュレーションを作成、検討し、財政格差等解消を国・道へ要望をしたが、2008年（平成20年）には十分な財政支援が得られないため、こちらも解散している。

2.3 ゆかりの人々

・三浦綾子

戦時下における軍国主義の色濃い当時の小学校や歌志内のまちの様子が、作品「石ころのうた」のなかに描かれている。

・高橋揆一郎

歌志内生まれで歌志内育ちの芥川賞作家。1987年（昭和62年）には自らが会長となって札幌歌志内会を設立。また、歌志内市民劇団のために原作を書き下ろしたり、郷土館ゆめつむぎの名誉館長に就任するなど、本市振興に積極的に関わった。その熱心な支援と活躍に対し市は、1997年（平成9年）に名誉市民の称号を贈呈した。

3. 地理、地形、気候

3.1 地理・地形

歌志内市は、北海道のほぼ中央、石狩平野の東北端の山麓地帯に位置し、東端は東経 142°05'08"西端は東経 141°52'38"南端は北緯 43°31'46"北端は北緯 43°40'20"に位置し、空知川と石狩川の合流点。空知川と石狩川によって発達した沖積平野と河岸段丘および丘陵地帯から成り立っている。

周囲を緑あふれる山並みに囲まれ、狭い山間を山岳地帯に源を発するペンケウタシュナイ川が東西に貫流し、この両岸に続く平坦地と斜面が歌志内市のたたずまいある。

面積 55.99 平方キロメートルの歌志内市は、その約 75%を森林が占め、ペンケ山を主峰とする東部と南部は、他の 600 メートル前後の山々を境として芦別市に接し、北部は赤平山、かもい岳を境として赤平市に接しています。また、西南部から西部は、次第に拓けて砂川市と上砂川町に接している。

美しい秀峰や自然に恵まれ、めぐる季節ごとに表情を変えて、住む人、訪れる人々を魅了する緑の大地である。

図 4: 歌志内の位置

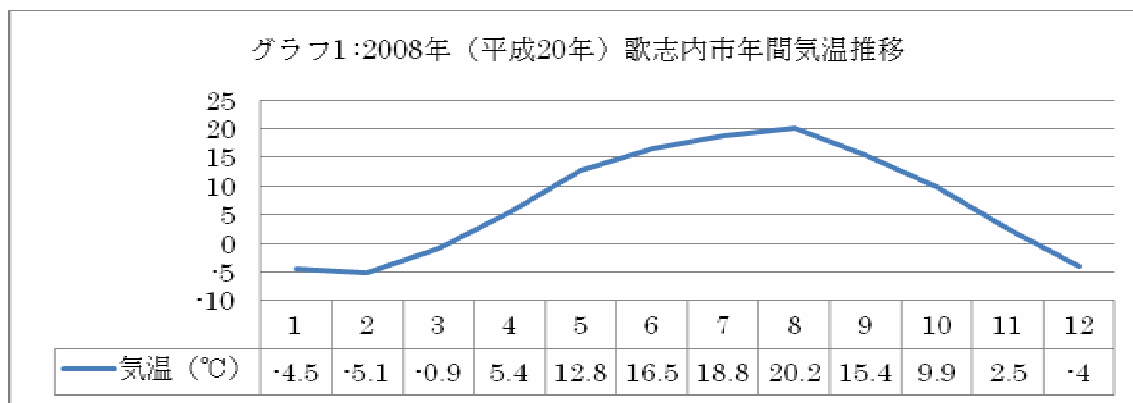


出典：ウィキペディア

3.2 気候

歌志内市の気候は内陸性で、四季の変化に富み美しい自然を織りなしている。平均降雪量は約 10 メートルに達し、その雪質には定評があり、風水害が少なく、安定した生活しやすい気候だ。年平均気温は 6.5 となっており、降水量も比較的多く、過去 10 年の年間平均降水量は 1,241mm である。風向きは、地形の関係から南風または南西の風が多い。また、歌志内には一年間の気温・降水量を定期的に測るアメダスがない。その気温・降水量は滝川のアメダスで測っている。参考に、その滝川のアメダスで測った値をグラフ化した。

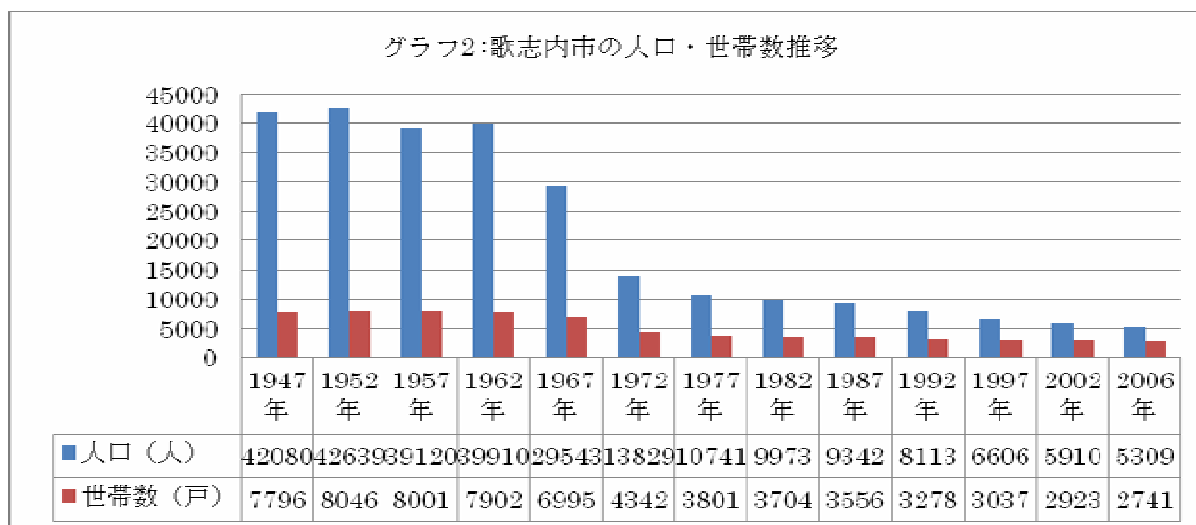
グラフ 1 は歌志内の年間気温推移である。季節による気温の差が大きく、8 月には最高気温が 30 を超え、1 月には最低気温が -20 を下回る。また、昼夜の気温の差も大きく典型的な内陸性の気候である。



出典:環境庁 HP

4.人口と世帯数推移

歌志内では炭鉱の閉山が相次いだ昭和 40 年代から人口が激減している。現在の人口はピーク時の 1/6 までになっているといわれている。グラフ 2 は、歌志内の人口と世帯数の推移である。



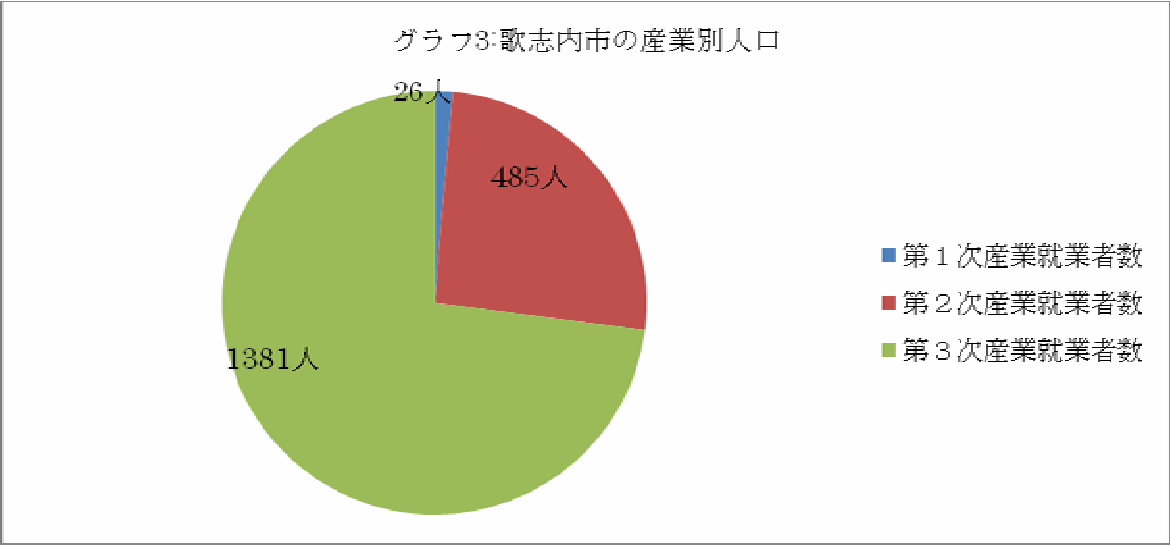
出典:国勢調査

5.産業

5.1 産業別人口

かつては炭鉱の町として栄えてきたが、エネルギー革命による炭鉱のあいつぐ閉山により、その基盤を失った。現在でもそれに代わる産業はなく、これも人口の減少の一つの原因と考えられている。

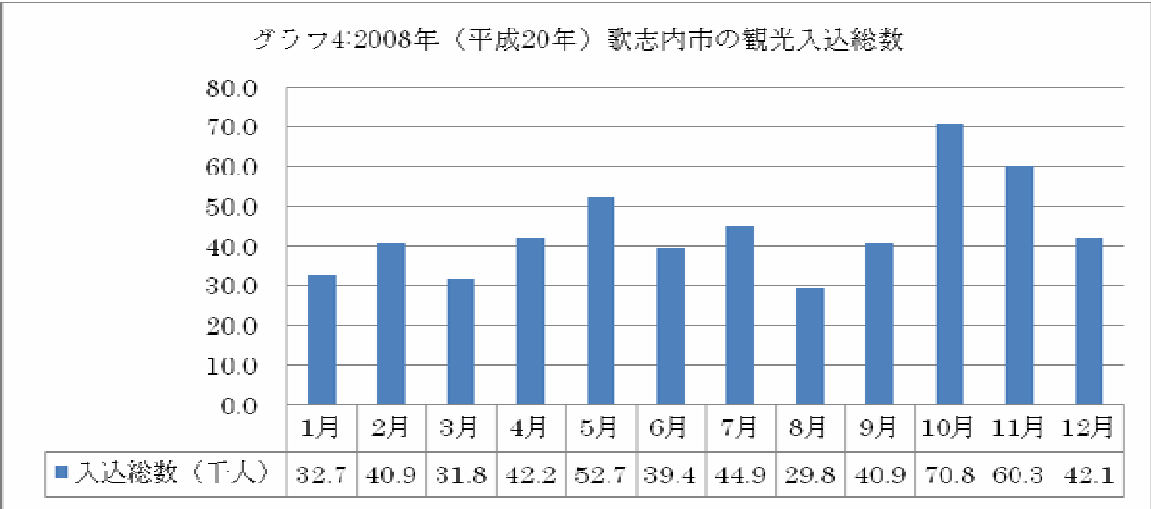
歌志内の産業別人口を現したのがグラフ 3 である。歌志内は、人口が小さいだけに、産業別人口も小さい。1 次産業が圧倒的に少なく、3 次産業に頼っている側面を持つ。



出典:わがマチわがムラ

5.2 観光

歌志内は1次産業、2次産業の人数が少なく、3次産業に偏っている側面がある。特に観光には力を入れている。グラフ4は2008年（平成20年）の観光入込数である。



出典:北海道統計課

7月の入込数が圧倒的に多い。これは空知管内をドライブで訪れる客数のピーク時に同じであり、道の駅を通るためであると予想される。また、冬季の入込数がやや多くなっているのは、歌志内にスキー場があるためだと考えられる。以下、そのスキー場など、歌志内の主な観光スポットを紹介したい。

図5:ゆめつむぎ

・郷土館「ゆめつむぎ」

炭都として栄えた歌志内の歴史や文化を、立体映像やパソコン検索などの最新技術を駆使して紹介する郷土資料館。立



出典:歌志内市公式 HP

体ハイビジョンによるシアターや大型採炭機械の実物展示があり、娯楽感覚で炭鉱のマチを体感することができる。また、収蔵展示室には古い時代の家財や電化製品などを数多く展示しており、昭和の時代にタイムスリップしたかのような懐かしい光景を再現している。

・旧空知炭鉱倶楽部「こもれびの杜記念館」

旧空知炭鉱倶楽部は 1897 年（明治 30 年）、北海道炭礦鉄道が空知炭の社員合宿として建設した。幾度となく増改築を重ね、1954 年（昭和 29 年）からは接待専用の倶楽部となり、1963 年（昭和 38 年）に空知炭礦に引き継がれた後も、1995 年（平成 7 年）の閉山を迎えるまで数多くの来賓を歓待した。建物の一部は撤去したが、炭鉱全盛期をしのばせる建造物であることから、西洋風の本館と数寄屋造りの別館を修復し、「こもれびの杜記念館」の愛称により末永く保存することになる。

図 6:こもれびの杜記念館



出典:歌志内市公式 HP

・かもい岳温泉

「かもい岳温泉」は、大浴場・気泡風呂・サウナはもちろんのこと客室・娯楽室・研修室・アスレチックルームなど、リラクゼーションには欠かせない要素が完備されている。特に、かもい岳スキー場のゲレンデまでは徒歩 3 分である。

図 7:かもい岳温泉



出典:歌志内市公式 HP

・チロルの湯

道の駅うたしないチロルの湯(みちのえき うたしないチロルのゆ)は、北海道歌志内市にある道の駅である。道の駅に隣接した所に日帰り温泉「チロルの湯」がある。また、歌志内市の財政悪化の為、2007 年（平成 19 年）から指定管理者制度による運営が始まっている。湯けむりの向こうは大自然、ロマンの里、チロルの湯は緑と風の大自然の山懷に抱かれた名湯である。

図 8:チロルの湯



出典:歌志内公式 HP

・かもい岳スキー場

かもい岳国際スキー場は、北海道歌志内市歌神の神威岳に位置するスキー場である。空知管内屈指の規模を誇る。東西に分かれる 2 つのゲレンデには合わせて 10 本のコースと 4 本の索道が設置されており、初級者から上級者まで楽しめる。最高所標高は 467m、最低所標高は 216m、標高差は 251m、最大滑走距離は 4,000m、最大傾斜は 31°となっている。下部には、かもい岳温泉が立地しているほか、道道 1027 号砂川歌志内線が走っている。

図 9:かもい岳スキー場



出典:歌志内公式 HP

・うたしないワイン

上歌地区に広がる露頭炭採掘跡地で栽培されたワイン用ぶどうを原料に作られる特産ワインである。世界的にも珍しいセイベル 13053、ツバイゲルトレーベ、ドルンフェルダー、ロートベルガーの 4 品種をブレンドした、歌志内産ぶどうのみでできたバランスのよい酸味と心地よいのどごしが特徴のワインである。

図 10: うたしないワイン



出典: 歌志内市公式 HP

・純米酒「チロルの里」

北海道の酒米「きたひかり」を原料にしたやや辛口の純米酒で、あっさり系の和食とは抜群の相性。

ラベルは、歌志内市出身の芥川賞作家である高橋揆一郎氏が、地元の温泉である「チロルの湯」をモチーフに柔らかなタッチで描かれており、大変好評を博している。

図 11: チロルの里



出典: 歌志内市公式 HP

参照

ウィキペディア：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%8C%E5%BF%97%E5%86%85%E5%B8%82>

生活ガイド：<https://www.seikatsu-guide.com/citysearch/search/01227/2>

わがマチわがムラ：

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-02/227/economy.html>

歌志内公式 HP：<http://www.city.utashinai.hokkaido.jp/>

気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>